

チームオレンジ ~ このまちで自分らしく生きていく ~



1. 基本情報(令和5年12月現在)			
市・町名	松浦市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
21,014人	8,202人	39%	130.4km ²
2. チームの概要			
チーム名			
開始時期	令和4年3月 ~		
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 ()		
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員：1人 地域包括支援センター職員：4人		
メンバー構成	集いの場サポーター	13人	
活動頻度	・個別活動：ケースによって頻度が異なる ・集いの場「およりまっせ」：週1回		
チームオレンジの種類	<input type="checkbox"/> 第1類型 共生志向の標準タイプ <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型 既存拠点活用タイプ <input type="checkbox"/> 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ <input type="checkbox"/> その他		
チームオレンジ三つの基本について	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他 () 上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

集いの場の運営団体の活動がチームオレンジとしての活動（認知症の方への見守り、声かけ、話し相手、孤立しないための関係づくりなど）を实践されていたことに着目し、チームオレンジとして発足してもらうよう働きかけた。



4. 活動内容

- ・週1回地域の集いの場を運営しているサポーターで集いの場に参加している。
- ・認知症の方への日常的な見守り、声掛け、安否確認を行っている。



5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

多職種で連携し家族の困りごとをそれぞれ把握し、医療や介護に繋がられるように連携を取り、解決法を考えたりしながら工夫している。

6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

R4年2月に県のオレンジチューター派遣事業を活用し、ステップアップ講座を開催した。

< 内容 >

- ・チームオレンジについて
- ・認知症の理解

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

認知症の有無に関わらず、日常生活に支援を必要としている人として捉え、オレンジサポーターが負担にならない範囲で日頃の声かけや見守りを実践できていることは、ちょっとした地域のつながりがあれば住み慣れた地域で本人らしい生活を続けることができるという目標になる。チームオレンジと他の地域の集いの場との交流会を企画し、新たなオレンジサポーターの活動を波及させていきたい。

【課題】

支援を必要としていた認知症の方が施設入所されたことで、チームオレンジの活動としては現在休止中。集いの場に参加されている他の認知症の方に対してオレンジサポーターの支援が必要になった場合には、再度サポーターと調整していく。

8. チームのアピールポイント

令和3年度に、調川地区でチームオレンジが発足しました。集いの場の運営団体の活動がチームオレンジとしての活動を実践されていたところに着目しました。チームメンバーは、見守り・声掛け、話し相手、孤立しないための関係づくりなどの活動を行っています。認知症の人やその家族もチームの一員として参加し、安心して暮らし続けられる地域づくりを目指しています。

9. 今後の活動について

認知症があっても住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生活できるよう、また、オレンジサポーターの介護予防や生きがいにもつながり、楽しみながら支えられるような活動を目指している。